

第1回定例会

定例会の概要

今回の第1回定例会は、2月24日から3月23日までの28日間の会期で開かれました。

今定例会では、議員及び委員会から提出のあった「北海道みんなの日条例案」などの議案6件と、知事から提出のあった「平成29年度北海道一般会計予算」などの議案80件が、原案どおり議決されました。

本会議においては、道政が直面する諸課題について、5人の議員が各会派を代表して質問を行ったほか、22人の議員が一般質問を行いました。

また、「平成29年度北海道一般会計予算」などについて、予算特別委員会を設置し審査するとともに、各常任・特別委員会においては、付託された議案について、審査を行いました。

主な審議日程 2月24日～3月23日

2月24日	本会議
3月 2日～ 3日	本会議（代表質問）
7日～13日	本会議（一般質問など）
10日～21日	予算特別委員会
22日	常任・特別委員会
23日	本会議

● 定例会メモ

第1回定例会は、年4回の定例会のうち最も長い期間（28日間）、開催されます。

なお、代表質問があるのは、第1回と第3回の定例会です。

議決の状況

- 予算案 「平成29年度北海道一般会計予算」、「平成28年度北海道一般会計補正予算」など 33件
- 条例案 「北海道みんなの日条例案」、「北海道新エネルギー導入加速化基金条例案」など 40件
- 決議案 「朝鮮民主主義人民共和国のミサイル発射に抗議する決議」
- 意見案 「日ロ両国における相互信頼関係の構築等を求める意見書」、「障がい者やその家族を支える環境整備の充実を求める意見書」など 3件

注目の議案から

北海道みんなの日条例

～議員提出条例が可決されました！～

「北海道みんなの日条例案」が、全会派からの議員提出条例として、3月23日に可決されました。1869年（明治2年）、松浦武四郎が明治政府に「北加伊道（ほっかいどう）」を提案した日に当たる7月17日が、「北海道みんなの日」（愛称：道みんなの日）となりました。

北海道に暮らすみなさんが、北海道のこれまでの歴史や文化、風土を見つめ直し、北海道の価値を再認識し、一体となってより豊かな北海道を築いていくことを目的に制定されたものです。



松浦武四郎の石像と歌碑（天塩川流域調査出発地：天塩町鏡沼海浜公園内）

また、道外から北海道を訪れる方、北海道にゆかりのある方に、北海道の魅力を発信する機会としています。なお、この日は記念行事が行われるほか、一部道立施設で利用料が次のとおり無料となります。

▼ 北海道博物館（札幌市厚別区）/総合展示の観覧料、北海道開拓の村（札幌市厚別区）/入場料、旭川・函館・帯広美術館（旭川市・函館市・帯広市）/常設展示の観覧料、オホーツク流水科学センター（紋別市）/入場料 など

代表質問・一般質問

● 代表質問

5人の議員が各会派を代表して、知事の政治姿勢や道政全般について、質問を行いました。

- ・ 3月2日（木） 小松 茂議員（自民党・道民会議）、稲村 久男議員（民進党・道民連合）
- ・ 3月3日（金） 中山 智康議員（北海道結志会）、安藤 邦夫議員（公明党）、真下 紀子議員（日本共産党）

● 一般質問

3月7日（火）～3月10日（金）、22人の議員が、道政上の諸課題について、質問を行いました。

特に質問の多かった項目

- 一次産業の振興 漁業生産の回復に向けた対策、森林づくりを担う人材の育成・確保 など
- J R 問 題 JR北海道が公表した維持困難な路線への対応 など
- 観 光 振 興 新税など財源確保の手法、宿泊施設の不足への対応等総合的な対策 など
- 新エネルギー 「北海道新エネルギー導入加速化基金」運用の考え方 など

キーワードをピックアップ！

北海道災害ボランティアセンター

北海道社会福祉協議会では、本年4月から「北海道災害ボランティアセンター」を常設し、災害支援のネットワーク形成やコーディネーターの育成などを行うこととしています。

道では、センターの運営を支援するとともに、ネットワークにも積極的に参画するなど関係機関等と緊密に連携し、被災された方々へのボランティアによる支援が迅速に行われるよう取り組んでいます。



南富良野町災害ボランティアセンター
オリエンテーションの様子（平成28年台風10号）



JRの路線維持

JR北海道は、財政状況の悪化から、昨年11月に「当社単独では維持することが困難な線区について」を公表しました。

道が設置する地域公共交通検討会議の鉄道ネットワークワーキングチームでは、本年2月に、すべての路線をこれまでどおり交通事業者の取組や国からの支援だけで維持していくことは難しく、地域にも可能な限りの協力が求められると報告しています。

見直し路線の沿線地域では、この問題に関し、協議、検討を始めています。



ほっかいどう未来チャレンジ基金

道では、北海道に貢献する意欲のある若者（18歳～39歳）が海外に挑戦することを応援し、北海道の将来を担う人材の育成を図るため、昨年12月に「ほっかいどう未来チャレンジ基金」をつくりました。留学費用などを助成していて、学生留学コース、文化芸術コースなど4つの支援コースがあります。

くわしくは、ホームページをみてね。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



▶「キーワードをピックアップ！」や定例会に関する、意見、感想、質問をお寄せください。 gikai.seisaku1@pref.hokkaido.lg.jp

